

ねりまの文化財

文化財講座抄録

関東武士と豊島氏

早稲田実業学校理事 松下正巳先生

(平成七年二月三〇日開催した文化財講座の内容を文化財係の責任で抄録したものです。)

会 員 課
練 馬 区 教 育 委 員 会
社 会 教 育 課
(文 化 財 係)
☎ 3993-1111 内線7141
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

平安時代、中央で志を得ない貴族は国司等になって地方に向したが、豊島氏の祖先もその一例で桓武天皇の流れをくむものが土着したのである。豊島氏は桓武平氏でありながら源氏によりみを通じながら勢力を伸ばした。源頼朝の代になり武士が行政の一角を担うようになると、豊島氏は守護・地頭をつとめ、南武蔵で勢力を培っていった。

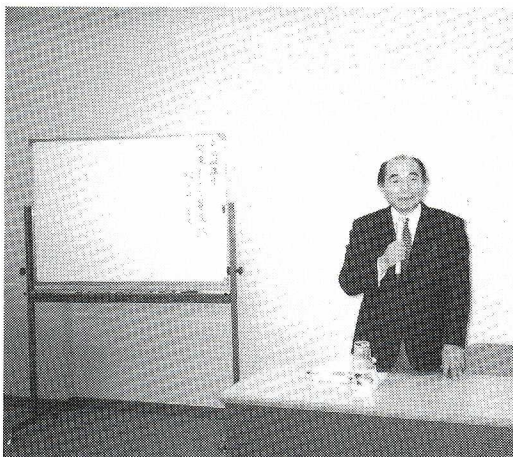
一三世紀末にすでに石神井郷に豊島氏の一族が住んでいて、その所領を娘に相続させていた。石神井郷にいた豊島(宇多)重広の娘二人を箱伊豆・土用熊といい、箱伊豆は宮城政業に嫁いだ。土用熊は豊島宗家の泰景に嫁

ぎ朝泰を生んだが、朝泰には子どもがなく、箱伊豆と政業の孫にあたる宗朝を養子に迎えた。宗朝は石神井郷を相続するとともに宗家を受け継いで宗家の所領をも合わせ持っていた。

石神井城を築く理由の一つに三宝寺池の水が石神井川に合流する地点で容易に灌漑用水が得られるという点があったと思われる。流域の水を制するための城は、石神井川沿いに練馬城、板橋城、滝野川城、平塚城にいたるまでだいたい四キロメートルずつ設けられた。石神井城は、段丘面をうまく利用した平城であった。中世城は石垣を使わず掘立小屋を

建てるだけで跡が残りにくいが、柱穴跡も若干検出されていて、陶磁器や素焼きの土器、石臼、砥石も出ている。石組を全く使っていない小規模な空堀をめぐらしたものでどのくらいの人数が生活していたかは不明だが、豊島氏がここに勢力を持ち、太田道灌と合戦するころには戦略的な施設を持つ城を造っていたのだろう。

豊島氏は、鎌倉幕府滅亡の際には討幕の新田義貞軍に加わり、分倍河原の合戦に参加した。幕府滅亡の二年後、執権北条高時の遺児時行は復権をねらって中先代の乱をおこすが敗れ、石神井の豊島景村のところに逃がれた。在宿中に男子をもうけたという伝説があり、この子が輝時で、景村の養子になり、石神井



城を引き継いだ。道場寺は、輝時が創建したという話も残っている。

応永三〇年（一四二三）、鎌倉公方足利持氏と関東管令上杉禅秀（氏憲）が争い、禅秀が自殺するという事件が起こった。このとき、豊島範泰は鎌倉公方にたち瀬谷原（武州入間川）で戦っている。

その後も関東の動乱が続き、上杉氏は古河公方足利成氏（持氏の遺児）と対決する姿勢をとった。上杉氏の中心は上杉顕定と上杉定正であり、顕定の家宰が長尾景信、定正の家宰が太田道灌であった。初めは共通の敵である古河公方と対決したが、景信死後、長尾家の跡目相続問題がおこり、これに不満を持った景信の嫡子長尾景春は古河公方に通じ上杉氏と対峙するようになった。文明八年（一四七六）のできごとで、豊島氏は景春に加勢した。豊島泰経の妻が長尾景春の姉妹だったという説もあるが、豊島氏が劣勢の景春に加担したのは、豊島氏が上杉定正の家宰太田道灌に領域を侵犯されつつあったためであろう。

文明九年（一四七七）四月一三日、道灌は泰経の弟泰明が籠もる平塚城（現北区）を攻撃した。なかなか落ちないので、一旦引き上げるところに、泰明の応援に駆けつけた泰経と遭遇し江古田原沼袋（現中野区）で合戦となった。このとき、豊島方は泰明や赤塚氏、

板橋氏など一族をはじめ一五〇人もの死者をだし、石神井城に敗走した。一日日には、道灌は愛宕山（現早大高等学院）に到達し、石神井城の攻略にかかる。二一日に城は落城し、泰経は小机城（現横浜市）に逃れ、その後消息を絶っている。

しかし、その後も豊島氏の庶流と思われる人が練馬に土着している。豊島氏は熊野神社を崇拜したが、近世になろうとしている天文三年（一五三四）にも「ねり馬の郷」の人が熊野神社と関係をもっている。豊島氏にとって練馬区はかかわり深い場所といえる。



石神井城跡の空堀

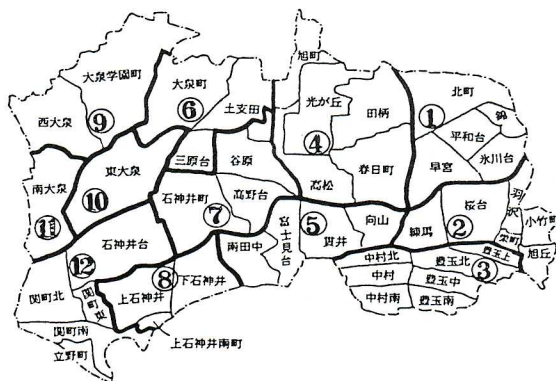
第5期

練馬区文化財保護推進員

平成八年二月一日に、練馬区文化財保護推進員を委嘱しました。十二名のうち十一名の方が再任されましたが、林勇氏が都合により退任され、蟻川葉子氏が新たに就任されました。推進員の活動は、担当地域を巡回して文化財の現況を把握したり、文化財保護に関する普及・啓発活動を行っています。

<担当地域一覧> 敬称略

- ①徳川 達子
- ②鈴木 曹元
- ③伊藤 経一
- ④中村 理行
- ⑤岩崎美智子
- ⑥瓜生 清
- ⑦蟻川 葉子
- ⑧長坂 淳子
- ⑨檜山 月子
- ⑩石井 薫
- ⑪荒井 道子
- ⑫井口 敏

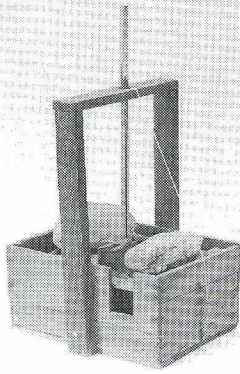
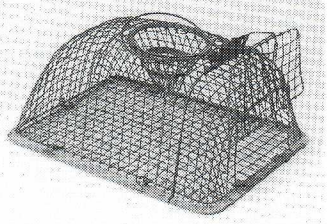


ねずみ捕り器 三種

郷土資料室収蔵品シリーズ 第21回

今では、家ねずみを見かけることは、殆どなくなりましたが、戦前は勿論、昭和五十年頃までは、天井や床下にねずみが住みついている家も多かった。そして、天井を駆け回り、穀物や野菜、石けんなどをかじり、また数も殖え続けるので、その駆除には手をやいた。

ねずみを捕らえるには様々な方法を用いたが、最も広く用いたのは、写真(上)の金網製ねずみ捕り器である。金網の内部に餌を仕掛けておき、それに触れると連動して、パタンと口がしまる仕掛けになっている。上部に口が開いているが、針金の穴が先細りになっているので、内側から外に出ることはできず、捕らえられてしまう。親ねずみが捕まると、子ねずみが親を慕って入り、一度にたくさん捕まることがある。捕まったねずみは、金網



の中にとりこになったまま、水の中につけられ、溺れて死ぬ。

写真(中)は、大正の終わり頃まで用いた自家製のねずみ捕り器である。箱の板底のほかに、もう一枚厚紙で造った床をおき、これを斜めに紐でつるして床の上に餌をのせる。

ねずみが穴から入ると床に重さがかかるので、それに連動している紐のとめがはずれ、上蓋が落ちる。上蓋には、約二・五キロの石がのっているので、ねずみはその重みを受けてつぶされて死ぬ。この方法は、ねずみを一びきらず捕まえるものであり、たくさん一度に捕まえられないが、面白いほど次々に捕まえることができた。大泉に住む古老は、この作り方を学校の講習会で教わったという。

写真(下)は、主に畑で用いたパチンコ式のねずみ捕り器である。さつまいもやかぼちゃの畑などに仕掛け、野ねずみをとった。

石神井公園駅周辺の文化財

元文化財保護推進員 林 勇

私たちの住んでいる、ふるさと練馬には、歴史や民俗・自然などを語り伝える数多くの文化遺産が残されている。

豊島氏の城跡、歴史の古い神社・仏閣、路傍に静かに立っている石仏、日常生活に欠かすことのできなかつた道・川・用水などは私たちの祖先が残してくれた文化遺産であることを忘れてはならない。今、私たちは、これらの貴重な文化遺産を通して、歴史的・民俗的な背景を知ることができる。郷土の文化遺産の大切さを認識し、年々進む開発事業などによる変化の中で適切に保護・保存し、後世に継承していかなければならない。

練馬区内には、国、都、区が指定、登録した文化財がたくさんあり、文化財保護推進員が定期的に巡回し、地域住民の方々や所有者と協力して保護に努めている。こうした文化財について、今回は私が担当していた地域である石神井町、高野台、谷原周辺を石神井公園駅から探訪してみる。

駅南口広場の東側に五メートル程の石神井火車站止碑(汽車の駅の意)がある。大正四年(一九一三)武蔵野鉄道(現西武池袋線)



東高野山奥之院

が敷設されたのを記念して土地の人が建てたもので、碑文には漢文で石神井の歴史や三宝寺周辺の風光が記されている。駅南口から線路沿いに西の方へ二分程歩くと、富士街道(旧ふじ大山道)の踏切である。踏切近くの十字路の角に、延享三年(一七四六)の銘がある庚申塔と一里塚改築記念碑が立っている。その奥には一里塚が残っている。

ふじ大山道は、川越街道の下練馬宿(現北町)を分岐点としていた。春日町の一里塚を経て、ここが二里にあたる。一里塚の横を田柄用水が北の方向に流れていた。一里塚から街道を西の方へ三分程歩くと、街道筋の右側に「大山街道」の説明板が立っている。

説明板の後ろ側に、元禄二年(一六九八)の合掌六手青面金剛庚申塔と寛成八年(一七九六)の聖観音が並んで祠堂内にある。そして元文二年(一七三七)造立の高い台座

上に立つ地蔵像が一番奥に、街道に向かい立っている。練馬区内では一番背の高い地蔵さんである。江戸時代、富士山や大山でのお遍路さんや修験道者が旅の安全を祈って手を合わせて行ったのではないだろうか。

富士街道から十五分程歩くと石神井公園ポート池南側に、池淵遺跡がある。昭和三十一年(一九五六)から四回発掘調査され、先土器時代、縄文時代、弥生時代、中世の遺跡が発見され、石器や土器、竪穴住居跡などが出土し、区立池淵史跡公園となっている。

バス通りに出て石神井公園駅方面に向い十分程で禅定院に達する。山門前に延命地蔵と六地藏が立っている。境内には安政六年(一八五九)造立の立派な宝篋印塔や鐘楼、弘法大師像、応永三年(一三七〇)のものをはじめとする板碑、石幢六面六地藏、織部燈籠がある。本堂の一部を開放して、現在の石神井小学校の前身である豊島学校が明治七年(一八七四)に設立された。

禅定院を出て長命寺に向う途中に笠松墓地がポート池発着場近くの裏通りにある。墓内に元禄七年(一六九四)の銘がある笠付青面金剛庚申塔など五基の石塔がある。裏通りの突き当たりが、和田稲荷神社で境内に檜の老木があり御神木として祀られている。

ここから十五分程歩くと長命寺である。都

指定文化財の東高野山奥之院、区指定文化財の仁王門、区登録文化財の区最古の梵鐘をはじめ、境内には立派な十三仏坐像など石仏、石塔が林立し、歴史的に貴重な遺産が保存されている。

谷原交差点近くの旧ふじ大山道の路傍に道標、旧道と新道の分岐点に念仏講中の地蔵菩薩像が祠堂の中に立っている。毎年一〇月一四日、谷原念仏講の行事として、なわらい(祭事後、供物や酒を分けて食べる宴会)を行っている。

増島家の葉医門は谷原の交差点から五分くらいのところであり、区登録文化財になっている。茅葺屋根の立派な門で、建築は明治初期といわれる。

谷原六丁目の練馬清掃工場の近くに三軒の寺が隣あわせている。敬覚寺、宝林寺、真龍寺で三軒とも宗派は浄土真宗本願寺派である。関東大震災で三軒とも全焼し当地に移転、再建したといわれる。近くにあるバス停は三軒寺とよばれている。

石神井神社は三軒寺から歩いて二十分くらいである。祭神は少彦名尊すくひなのみことで、古来より「石神さま」と呼ばれ石神井の地名の起りといわれている。境内に狛犬、御神燈などの石造物がある。石神井公園駅はここから歩いて五分くらいである。